



教えて！ 預かりボランティアさん！

100 グラムの命を救い続ける神の手
ミルクボランティア 佐藤さん ✨



1. 預かりボランティアを始めたきっかけは何ですか？

30 年くらい前、キノコ採りに行って初めて野良猫？捨て猫？の子猫を保護しました。その後、自宅周辺で野良猫の子を保護したり、人伝いに子猫を保護してミルクを与えたり貰い手を探したりしている中、スタッフさんからの声かけでミルクボランティアをするようになりました。

2. 預かりボランティアをしていて楽しい時はどんな時ですか？

子猫が歩く後ろをついて歩き、呼ぶと寄ってきて、安心して抱かれてノドを鳴らして寝てくれる時。



3. 預かりボランティアをしていて大変なこと、辛いと思う時はどんな時ですか？

小さな子は 2.3 時間おきのミルクが必須だけど、下痢や嘔吐があると目が離せないこと。
一番辛いのは小さな命を救えず亡くなってしまうこと。

小さな命を亡くすたびに、辛くて泣いてしまう事もありますが、子猫達を救っているようで、実は私が救われているような気がします。子猫がいるから元気ももらって、笑えて、頑張れているんだと思います。

4. 保護猫達を貰ってくれる貰い手さんへお伝えしたいことはどんなことですか？

小さな子猫、大人猫、最初は慣れなかつたり、やんちゃで手を焼くこともあるかも知れませんが、ゆっくり見てあげてください。きっと笑顔と癒しを貰えます。優しい気持ちになります。

避妊、去勢手術をして、毎日声を掛けて撫でてあげてくださいね。

きっと猫達が幸せを与えてくれると思います 😊



預かりボランティアを辞めたいと思ったことは「ないです！」とおっしゃる佐藤さん。お仕事もされ、家事もされ、乳飲み子を何頭もお世話いただいても、爪の先にまでいつも気を配れるその余裕 ✨ 離乳の早い熟練の子猫育ての腕も、いつも落ち着いたそのオーラも、いつもバタバタてんやわんやしている私にとっての憧れです。佐藤さんのお宅はご家族全員が大の猫好き。何をしても許して溺愛してくれるパパ、ママが忙しいとミルクをやってくれるお兄ちゃん、子猫を楽しみに帰省してくれる娘さん達に囲まれ、保護猫達は貰われるまでの間、我が子と変わらない愛情を受けて育っています。どんなに忙しくても「大丈夫！連れてきて！」と言ってくれるボランティアさん達のおかげで、一頭、また一頭と、命をつないでいくことができます。